

ビジネス界、APECの経済統合に向けた新たなビジョンを探求

APECビジネス諮問委員会（ABAC）の台北会議に出席したAPEC地域のビジネス界のリーダーは、現在欧州で出現しつつある危機への懸念を表明するとともに、ボゴール目標に向けた進捗状況についての調査結果と提言を発表した。

ABACは、欧州における危機が長引き、APEC地域に拡大するような事態に備えて、各国・地域が迅速で整合性のとれた行動がとれるようにしておくよう求める。

ABACは、アジア・太平洋地域における自由で開かれた貿易投資の実現というボゴール目標に向けた進捗状況のレビューを委託した。その結果、APECに参加する先進・途上両方の国・地域とも、1994年のAPEC首脳による目標の採択以来、かなりの程度市場開放が進んだという結論に達した。

しかしながら、グローバルビジネスは変化するものであり、この目標を達成するには市場統合の一層の深化のためにより多くのことをしなければならない。

「開拓的かつ野心的なボゴール目標の策定と開始から16年経ったが、ボゴール目標を支える原則がAPEC各国・地域に非常に有益な成果をもたらしたことは明白である。しかしながら、世界は変化し、統合の深化とビジネスの力強い成長に対する障害の除去に、APECは改めて重点的に取り組む必要がある。」と、ABAC議長の相原元八郎氏は述べた。

ABACは、グローバルビジネス、特にアジア太平洋地域のサプライチェーン、バリューチェーンの進化を念頭に置いた、経済統合に向けた新たなビジョンの必要性を説いた。そのビジョンは、単にモノだけでなくサービス、投資、アイデア、人の流れの自由化も網羅すべきである。この新たなビジョンはバランスのとれたたあまねく広がる成長と持続可能な発展に重点を置き、中小企業ならびに零細企業のニーズを念頭に置いたものであるべきである。

ABACは、アジア・太平洋地域の経済・市場の統合に向けての最も実現可能なコンセプトとみられるFTAAPの創設を引き続き要望する。ABACは、ビジネス界がより活発にその進化に関わることができるよう、FTAAPに向けたよりいっそう詳細な取り決めや手順を示すことをAPEC閣僚に求めた。

ABACは首脳への提言を、日本の札幌で6月5-6日に開催される貿易担当大臣との会合の際に提出する。

【ABACについて】

ABACはAPEC参加21カ国・地域それぞれ最多3名のビジネス界の代表から成る。ABACはAPEC首脳にビジネス部門の重点課題や懸念事項を提示する。第二回ABAC会議は5月17日から21日まで台北で開催された。